資　料　１

# 平成 29 年度　希望郷いわてグローバル人材育成事業　実施要領

平成 29 年４月５日
岩手県 教育委員会事務局 学校教育課
岩 手 県　政 策 地 域 部　国 際 室

## １　事業全体の目的

社会全体のグローバル化が急速に進展する中、県内においても、平泉や釜石橋野高炉跡の世界遺産登録、ラグビーワールドカップ開催による観光客の増加やＩＬＣ計画の実現を見据えた海外研究者の受入れなど、国際交流人口の更なる拡大が見込まれている。

このような状況下において、本県ではグローバル人材として、①岩手県・日本国/他国に対する理解、②バイタリティ、③コミュニケーション能力、④グローバル社会への貢献、⑤独自性・専門性が求められている（「いわてグローバル人材育成ビジョン」（平成 26 年３月））。

これらの資質・能力を育成するために、中高校生を対象としたイングリッシュ・キャンプと、高校生の海外派遣を有機的に組み合わせることにより、日本語によるコミュニケーション能力に加え、英語を中心とした外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るとともに、海外経験を通じた国際理解や国際感覚を養い、グローバルな視点と問題解決能力を持ち、本県の次代を担い世界と関わっていこうとする強い志を持つ若者の育成を目指す。

## ２　イーハトーブ・イングリッシュ・キャンプ（ＩＥＣ）について

### （１）　概　要

ア　実施内容

希望する県内の中学生並びに義務教育学校後期課程の生徒（以下「中学生等」という。）及び高校生に対し、ALT・CIR を活用した英語コミュニケーション能力向上のためのアクティビティ、海外派遣を行う高校生への事前研修及び事後研修、ゲストスピーカーによる講演や交流等を行うもの。

イ　実施場所

岩手県立総合教育センター及び明窓館
〒025-0395　岩手県花巻市北湯口第２地割 82 番１　（電話：0198-27-2711）

ウ　実施期間

夏キャンプ（夏期ＩＥＣ）　平成 29 年７月 15 日（土）～17 日（月・祝）　２泊３日
秋キャンプ（秋期ＩＥＣ）　平成 29 年 11 月 23 日（木・祝）～25 日（土）　２泊３日

エ　募集人数

県内の中学生等及び高校生 50～60 名（そのうち中学生等は 10 名程度）。ただし、実用英語技能検定（英検）３級程度以上の英語力を有することが望ましい。

オ　引　率

原則として必要としない。参加生徒の所属校の教員や保護者の参観は自由とする。

カ　経費負担

１回につき 3,810 円（明窓館での宿泊費及び食費）

キ　会場までの移動

盛岡駅及び花巻駅から会場までは無料シャトルバスを運行する。ただし、自宅から盛岡駅及び花巻駅までの移動は各自とする。この他、自家用車による直接会場入りも可とする。

IEC におけるグループワークの様子（イメージ）
（平成 28 年度夏期 IEC から）

ク　その他

夏期ＩＥＣ・秋期ＩＥＣともに、最終日の報告会は保護者等へ公開する。

**（２）　ＩＥＣの募集・選考について**

ア　参加者に求める資質

（ア）　将来、海外とのつながりを持つことや、外国語でコミュニケーションをとることについて強い意欲があること

（イ）　異なる文化や環境に適用できる柔軟性と、団体行動における協調性があること

（ウ）　心身共に健康であること

（エ）　夏期ＩＥＣ及び秋期ＩＥＣの両方に参加できること

イ　選考方法

各学校から推薦があった参加希望者に対し、人数が規定の数を大きく越えた場合に本事業の選考委員会において、参加者を選定する。選考においては、提出書類等により総合的に判断する。

その際、地域バランスを考慮するが、必ずしもそうならない場合もありうる。

なお、応募者に対して英語力の基準は特に設けないが、英語外部検定試験等、その英語力を証明できる書類等がある場合は、本選考において加点するものとする。

最終日における全体記念撮影（イメージ）
（平成 28 年度秋期 IEC から）

ウ　校内選考

推薦にあたっては、校内選考を行い、学校長が推薦する者とすること。校内選考の内容や方法については各校に一任する。

エ　推薦人数

１校につき２名以内

オ　推薦要領

各校は、選考した推薦者について、ＩＥＣ兼北米派遣研修推薦書（様式第１号）及びＩＥＣ申込書（様式第２号）を下記により提出すること。

（ア）　提出先

〒020-8570　盛岡市内丸 10－１（10 階）

岩手県 教育委員会事務局 学校教育課　　担当　松本・那須川

電子メール　　satoshi-matsumoto@pref.iwate.jp

（イ）　提出期限

平成 29 年５月 19 日（金）正午必着　（電子メール提出物）

（ウ）　提出方法

・様式第１号（推薦書）及び様式第２号（申込書）の Word ファイルを電子メールで送付すること。

・様式第１号（推薦書）について、Word ファイルを電子メールで送付後、公印付き原本を速やかに郵送すること。

（エ）　その他

様式類は Word ファイルに直接入力すること（手書きのコピーによる PDF ファイルの提出は不可）。

カ　その他

本事業の応募や実施に当たり、ＦＡＱ（別添「資料２」）を添付しているので、応募の際は必ず参照すること。

## ３　海外派遣研修について

### （１）　概要・派遣目的

10 日から 16 日間の海外滞在により、海外派遣に参加する高校生は、外国語による実践的コミュニケーション能力の向上のほか、多様な考え方や異文化に対する理解を深めるとともに、人的交流を通じて、世界との「つながり」を意識、構築することによって、グローバル感覚のある人材の素地が育成される。

中長期的には、さらに長期の留学にチャレンジし、又は海外の大学に進学するなど、語学力や国際感覚を磨き、地域における多文化共生の担い手となっていくとともに、海外派遣経験者によるネットワークに参画し、世界との「つながり」を岩手の力にしていくための取組を実施していくことを期待するもの。

### （２）　主な内容（派遣先別に記載）

**【北米コース（予定訪問地：カナダ・トロント、ニューヨーク市、ワシントンＤＣなど）】**

ア　実施期間

平成 29 年 10 月 14 日（土）～29 日（日）　計 16 日間

イ　派遣内容（予定）

前半はカナダの一般家庭にホームステイをしながら現地の語学学校での英語学習を主としたプログラムに参加し、後半はニューヨークやワシントンＤＣなどに移動し、ホテルに宿泊しながら現地企業の訪問や現地高校生との交流プログラムに参加する。（※スケジュールの概要は、「５（１）　参考：昨年度（平成 28 年度）の北米派遣研修行程表」を参照のこと。）

米国内高校訪問・交流会の様子（イメージ）
（平成 28 年度北米コースから）

ウ　募集人数

岩手県内の高等学校に在学する高校生のうち、第２学年以上　10 名

エ　引率者

| | | |
|---|---|---|
| 岩手県政策地域部国際室 | 職員１名 | |
| 岩手県国際交流員（CIR） | １名 | |
| 岩手県教育委員会事務局学校教育課 | 職員２名 | 計４名 |

オ　経費負担

（ア）　県負担経費

語学研修経費、航空運賃（燃油サーチャージ・空港税等）、派遣先での交通費及び宿泊費、入場観覧料、オリエンテーション参加に係る交通費等

（イ）　派遣者負担経費

６万５千円程度（往復国内交通費、スーツケース配送料、パスポート申請手数料、eTA・ESTA(注)申請代行手数料、海外旅行傷害保険料等）。ただし、市町村民税非課税世帯の生徒及び東日本大震災津波の被災生徒、平成 28 年台風 10 号の被災生徒は一部免除。

なお、上記以外の飲食代、日本へのお土産代、電話代等派遣者の私的支出に要する経費は派遣者負担。

（注）　eTA・ESTA…ビザなしでカナダ・米国に渡航する場合に必要な認証申請

**【中国雲南省コース（予定訪問地：雲南省、上海市など）】**

ア　実施期間

平成 29 年 10 月 26 日（木）～11 月４日（土）　計 10 日間

イ　派遣内容

７月に岩手県を訪問する雲南省生徒の家庭へのホームステイ（１泊又は２泊）のほか、雲南省内の各地域における大学生や高校生との交流プログラムへの参加、少数民族文化の体験、現地企業や世界自然（文化）遺産の視察等を行う。（※スケジュールの概要は、「５（２）　参考：昨年度（平成28年度）の中国雲南省派遣研修行程表」を参照のこと。）

雲南省・麗江での青少年交流の様子（イメージ）
（平成28年度中国雲南省コースから）

ウ　募集人数

岩手県内の高等学校に在学する高校生のうち、第２学年以上　12名

エ　引率者

| | | |
|---|---|---|
| 岩手県政策地域部国際室 | 職員２名 | |
| 岩手県国際交流員（CIR） | １名 | |
| 岩手県教育委員会事務局学校教育課 | 職員１名 | 計４名 |

オ　経費負担

（ア）　県負担経費

往復国内交通費、航空運賃（燃油サーチャージ・空港税等）、派遣先での交通費及び宿泊費、入場観覧料、オリエンテーション参加に係る交通費等

※　雲南省滞在時の交通費、宿泊費、入場観覧料等は雲南省政府が負担

（イ）　派遣者負担経費

３万円程度（スーツケース配送料、パスポート申請手数料、海外旅行傷害保険料等）。ただし、市町村民税非課税世帯の生徒及び東日本大震災津波の被災生徒、平成28年台風10号の被災生徒は一部免除。

なお、上記以外の飲食代、日本へのお土産代、電話代等派遣者の私的支出に要する経費は派遣者負担。

## （３）　海外（北米・中国雲南省）派遣者の募集・選考について

ア　海外派遣者に求める条件

（ア）　将来、海外とのつながりを持つことや、外国語でコミュニケーションをとることについて強い意欲があること

（イ）　外国語のみならず、訪問地（国）の政治経済、歴史、地理及び文化並びに訪問予定施設に関する知識の習得などの事前学習に努めること

（ウ）　異なる文化や環境に適用できる柔軟性と、団体行動における協調性があること

（エ）　心身共に健康であり、海外派遣に十分耐えうる者

（オ）　夏期・秋期２回実施するＩＥＣに必ず参加できる者（北米コース）
夏期ＩＥＣに必ず参加できる者（中国雲南省コース）

（カ）　事前オリエンテーション（約３回）、事後のワークショップ・報告会等（２か月に１回程度）に必ず参加（下記「注１」の行事等と重なった場合を除く。）できる者

注１　欠席事由として認められるものの例

修学旅行への参加、定期考査や入学試験又は就職試験の受験、高総体や高総文祭等高体連や高文連が主催する大会等の参加、学年全体が受験するテスト等の受験、親族の葬儀（この他の事例については応相談）

２　事前オリエンテーション等の日程は、「（４）　派遣者及び保護者に対する説明会、オリエンテーション及び事後報告会等の開催について（予定）」を参照のこと。

イ　選考について

（ア）　派遣人数

各学校から推薦があった参加希望者に対し、本事業の選考委員会において下記のとおり選定する。

| コース名 | 派遣者 | 補欠者(注) |
|---|---|---|
| 北米コース | 10 名 | 2名 |
| 中国雲南省コース | 12 名 | 2名 |

注　補欠者は、派遣者がやむをえない事情で本事業に参加できなかった場合に繰り上げるものとする。

（イ）　選考方法

a　選考においては、下記に掲げる事項の評価・審査を行い、総合的に判断する。

| 北米コース | | |
|---|---|---|
| 1次審査 | ○　応募エントリーシートの審査 | 1次・2次審査結果を総合的に勘案する。 |
| | ○　日本語及び英語面接試験　［6/17（土）実施］ | |
| 2次審査 | ○　夏期ＩＥＣ［7/15（土）～17（月・祝）実施］における活動・取組等の姿勢の評価・審査 | |

**⇒派遣者決定：７月末に通知予定**

| 中国雲南省コース |
|---|
| ○　応募エントリーシートの審査 |
| ○　日本語面接試験　［6/17（土）実施］ |

**⇒派遣者決定：６月末に通知予定**

b　なお、応募者に対して英語力の基準は特に設けないが、英語外部検定試験等、その英語力を証明できる書類等がある場合は、本選考において加点するものとする。（中国雲南省派遣研修参加者選考においては、これに中国語が加わる。）

c　上記ａの表中に記載のとおり、北米コース及び中国雲南省コースとも、平成 29 年６月 17 日（土）に面接試験を行うため、応募者は予定・スケジュールを調整しておくこと。

注１　面接試験会場：　岩手県庁本庁舎（盛岡市）を予定

２　所要時間（集合～解散）：　北米コース　　約１時間

中国雲南省コース　　約 45 分間

３　各応募者の面接時間等の詳細については、平成 29 年６月上旬までに各学校あて通知する。

ウ　校内選考

推薦にあたっては、校内選考をし、学校長が推薦する者とすること。校内選考の内容や方法については各校に一任する。

エ　推薦人数

下記の表のとおり。ただし、同一の生徒を北米コース・中国雲南省コースそれぞれに推薦することは不可とする。

| コース名 | 各学校からの推薦人数 | 注意事項 |
|---|---|---|
| 北米コース | ２名まで | 左記２名（北米コース）については、ＩＥＣへの申込を必須とする。 |
| 中国雲南省コース | ２名まで | 中国雲南省コース派遣者は夏期ＩＥＣに参加予定であるので、ＩＥＣへの申込（様式第１号及び第２号の提出）は不要となる。 |

オ　推薦要領

**【北米コース】**

各校は、選考した推薦者について、ＩＥＣ参加申込資料（上記２－（２）－オ参照：様式第１号及び様式第２号）とともに、北米派遣研修応募エントリーシート（様式第３号）を下記により提出すること。

（ア）　提出先
〒020-8570　盛岡市内丸10-１（10階）
岩手県 教育委員会事務局 学校教育課　（担当　松本・那須川）
電子メール　　satoshi-matsumoto@pref.iwate.jp
（イ）　提出期限
平成29年５月19日（金）正午必着　（電子メール提出物）
（ウ）　提出方法
・様式第１号（推薦書）、様式第２号（申込書）及び様式第３号（エントリーシート）のWordファイルを電子メールで送付すること。
・様式第１号（推薦書）について、Wordファイルを電子メールで送付後、公印付き原本を速やかに郵送すること。
（エ）　その他
様式類はWordファイルに直接入力すること（手書きのコピーによるPDFファイルの提出は不可）。

**【中国雲南省コース】**

各校は、選考した推薦者について、中国雲南省派遣研修推薦書（様式第４号）及び中国雲南省派遣研修応募エントリーシート（様式第５号）を下記により提出すること。

（ア）　提出先
〒020-8570　盛岡市内丸10-１（８階）
岩手県 政策地域部 国際室　（担当：金森）
電子メール　　k-kanamori@pref.iwate.jp
（イ）　提出期限
平成29年５月19日（金）正午必着　（電子メール提出物）
（ウ）　提出方法
・様式第４号（推薦書）及び様式第５号（エントリーシート）のWordファイルを電子メールで送付すること。
・様式第４号（推薦書）について、Wordファイルを電子メールで送付後、公印付き原本を速やかに郵送すること。
（エ）　その他
様式類はWordファイルに直接入力すること（手書きのコピーによるPDFファイルの提出は不可）。

カ　結果通知

選考結果について、中国雲南省コースは平成29年６月下旬に、北米コースは同年７月下旬に、推薦のあった学校長に対して、書面により通知する。

なお、北米コースについて、派遣者は夏期ＩＥＣの後に決定する旨を、各学校においてあらかじめ応募者に通知しておくこと。

キ　その他

（ア）　海外派遣研修応募者の（パスポートの）国籍について

応募する生徒の国籍は問わないが、派遣する国によっては、渡航ビザを取得する必要がある場合又は国の協定等により渡航ビザが取得できない場合があるため、外国籍の生徒が本事業に

応募する際は、その旨を各学校においてあらかじめ確認しておくこと。

（イ） 応募者への事前連絡事項

下記の件について、各学校においてあらかじめ応募者に通知・連絡しておくこと。

a　海外派遣研修参加者は、事後においてアンケート及びレポートの提出並びに各学校において報告会を行うことが必須であること。

b　中国雲南省では、中国語の他に英語を使用する場面が多くなること。（このため、今年度から、中国雲南省派遣者は、夏期ＩＥＣのすべてのプログラムに参加し、英語習得の強化を図ることとなった。）

（ウ） 派遣決定後の取消しについて

海外派遣者の決定後において、当該派遣決定者に関し、次に掲げる事項に該当するものと事務局が判断した場合、当該派遣を取り消すことがあるので注意すること。

a　県の代表としてふさわしくない言動が観察又は報告された場合

b　長期又は深刻な心身の不調及び疾病等が生じた場合

c　理由のいかんを問わず、学校の授業出席時間、登校日数等が著しく少ない場合

d　渡航（派遣研修）に係る課題・手続き書類等の提出物を期限内に提出しない事例が複数回見られた場合

e　応募書類記載事項及び面接等における発言内容に虚偽・詐称等が確認された場合

f　派遣研修出発前の事前学習を怠っている場合

g　上記ａ～ｆのほか、当該派遣（海外渡航）及び派遣前後のプログラム（ミッション）を遂行することができないと判断される場合

**（４） 派遣者及び保護者に対する説明会、オリエンテーション及び事後報告会等の開催について**

| | | 北米コース | 中国雲南省コース |
|---|---|---|---|
| 保護者説明会及び第１回事前オリエンテーション | 日付 | 平成 29 年８月 19 日（土） | 平成 29 年８月５日（土） |
| | 会場 | 盛岡市内 | |
| | 内容 | 事業概要、行程、訪問先等の説明、事前準備の説明、質疑応答など | |
| 第２回事前オリエンテーション | 日付 | 平成 29 年９月２日（土） | |
| | 会場 | 盛岡市内 | |
| | 内容 | 中国雲南省派遣者との合同ワークショップ、カナダ・米国の習慣等の紹介、派遣先と関わりを持つ方による講演など | 北米派遣者との合同ワークショップ、中国の習慣等の紹介、派遣先と関わりを持つ方による講演、中国で披露するアトラクションの練習など |
| 第３回事前オリエンテーション | 日付 | 平成 29 年９月 30 日（土） | 平成 29 年 10 月７日（土） |
| | 会場 | 盛岡市内 | |
| | 内容 | 出発前最終確認、プレゼンテーション準備など | 出発前最終確認、中国で披露するアトラクションの練習など |
| 出発前知事表敬・最終案内 | 日付 | 平成 29 年 10 月第２週の平日 | 平成 29 年 10 月第３週<br>又は第４週の平日 |
| | 会場 | 岩手県庁本庁舎（盛岡市） | |
| | 内容 | 岩手県知事表敬訪問、渡航に必要な書類・物品等の配付など | |

| | | 北米コース | 中国雲南省コース |
|---|---|---|---|
| 国際交流イベントにおける派遣報告 | 日付 | 平成29年11月19日（日） | |
| | 会場 | いわて県民情報交流センター［アイーナ］（盛岡市） | |
| | 内容 | 海外派遣の報告、大学生・高校生等とのワークショップ参加など | |
| 秋期ＩＥＣでの派遣報告 | 日付 | 平成29年11月23日（木・祝）<br>～25日（土）の秋期ＩＥＣ期間内 | ― |
| | 会場 | 岩手県立総合教育センター | ― |
| | 内容 | 北米派遣の報告 | ― |
| 事後ワークショップ・研修会 | 日付 | 平成30年２月下旬の土曜日 | |
| | 会場 | 盛岡市内 | |
| | 内容 | 海外派遣研修の振返り、講演聴講、ワークショップの実施など | |

注　原則として、海外派遣者はこの表内のすべてに出席することを条件とする。（前述（３）-ア-（カ）を参照のこと。）

## ４　その他

個人情報の取扱い

各校から提出されたエントリーシート及び推薦書等の応募書類は、本事業実施の目的にのみ使用し、他の目的には使用しないものとする。

なお、ＩＥＣ及び海外派遣は県事業として実施していることから、県ホームページ、Facebook、各報道機関（テレビ・新聞等）において、顔、学校名、性別、年齢、氏名が公表されることもある。

※　参考：グローバルいわて推進事業（希望郷いわてグローバル人材育成事業）Facebook

URL：　https://www.facebook.com/globalIWATE/

## 5　参　考

### （1）　昨年度（平成 28 年度）の北米派遣研修行程表

| 日　目 | | 行　程 | 宿　泊 |
|---|---|---|---|
| 1日目 | （日本） | ○　盛岡駅を出発、羽田空港へ<br>○　空路、東京→トロント（カナダ）へ | ホテル<br>（トロント） |
| | （カナダ） | ○　イーハトーブ・トロント岩手県人会との交流会 | |
| 2日目 | | ○　ナイアガラ・フォールズ視察、カナダ・米国国境越え体験など<br>○　ホストファミリーと面会、ホームステイ開始 | ホスト<br>ファミリー宅<br>（トロント） |
| 3日目<br>～<br>7日目 | | ○　ホストファミリー宅からトロント市内語学学校に通学<br>○　語学学校での研修<br>○　５日間のうちの２日は午後にアクティビティあり（トロント市内視察：ＣＮタワー、ロジャースセンター、ケンジントン市場など） | |
| 8日目 | （米国） | ○　トロントからニューヨーク（米国）へ空路移動<br>○　メトロポリタン美術館視察<br>○　ニューヨーク岩手県人会との交流会 | ホテル<br>（ニューヨーク） |
| 9日目 | | ○　ニューヨーク市内視察（自由の女神、エリス島移民博物館、ウォール街、9.11 メモリアル、Times Square など）<br> <br>＜自由の女神＞（イメージ） | |
| 10 日目 | | ○　ニューヨーク市内日系企業等訪問（全日本空輸、自治体国際化協会、ＮＨＫ米国総局、双日米国会社）<br>○　ＪＥＴ-ＡＡ（ＡＬＴ・ＣＩＲ等のＯＢ・ＯＧ会）との交流会 | |
| 11 日目 | | ○　ニューヨークからワシントンＤＣへ陸路移動<br>○　フィラデルフィア市内視察（ロッキーステップ、独立記念館、自由の鐘など）<br>○　リンカーン・メモリアル視察 | ホテル<br>（ワシントンＤＣ） |
| 12 日目 | | ○　ワシントンＤＣ市内視察（国会議事堂、ホワイトハウス、フォード劇場、硫黄島記念碑など）<br>○　世界銀行訪問 | |
| 13 日目 | | ○　ペンタゴン（米国国防省）視察<br>○　在米国日本国大使館訪問<br>○　現地高校 Boonsboro High School との交流（スミソニアン博物館グループ別見学、高校でのウェルカム・パーティ）<br> <br>＜在米日本国大使館＞<br>（イメージ） | Boonsboro High School 生徒宅<br>ホームステイ<br>（メリーランド州） |
| 14 日目 | | ○　Boonsboro High School 訪問・交流会 | ホテル<br>（ワシントンＤＣ） |
| 15 日目 | | ○　ワシントンＤＣを出発、空路にて日本へ（トロント乗継ぎ） | 機内泊 |
| 16 日目 | （日本） | ○　羽田空港到着、岩手県へ<br>○　盛岡駅到着、解散 | |

注　平成 29 年度は、上記と異なる行程となることもある。

（2） 昨年度（平成 28 年度）の中国雲南省派遣研修行程表

| 日　目 | 行　程 | 宿　泊 |
|---|---|---|
| 1 日目 | ○　盛岡駅を出発、羽田空港へ<br>○　空路、東京→上海へ | ホテル<br>（上海市内） |
| 2 日目 | ○　空路、上海→雲南省（昆明）へ<br>○　雲南省人民対外友好協会主催歓迎宴会・中日青少年友好交流懇親会 | ホテル<br>（雲南省昆明） |
| 3 日目 | ○　日中青少年友好交流運動会<br>○　ブルーベリー狩り<br>○　石林ジオパーク視察 | 雲南省青少年宅<br>ホームステイ<br>（雲南省昆明） |
| 4 日目 | ○　西山ロープウェイ搭乗、西山聶耳記念館・西山龍門見学<br>○　中国科学院昆明植物研究所見学<br>○　雲南省青少年とともに昆明市内見学など<br> <br>＜西山龍門＞（イメージ） | |
| 5 日目 | ○　昆明から大理へ陸路移動<br>○　洱海遊覧船乗船<br>○　下関お茶工場視察（生産区・博物館）<br>○　大理古城視察 | ホテル<br>（雲南省大理） |
| 6 日目 | ○　蒼山ロープウェイ搭乗、蒼山ジオパーク視察<br>○　大理第一中学（日本の高校に相当）訪問・交流<br>○　大理第一中学生徒とともにバーベキュー晩餐会、交流会 | |
| 7 日目 | ○　ペー族伝統クラフト絞り染め見学<br>○　世界遺産麗江古城見学<br>○　麗江市第一高級中学校（日本の高校に相当）訪問・交流<br>○　日中青少年餃子づくり、食事 | ホテル<br>（雲南省麗江） |
| 8 日目 | ○　藍月谷視察<br>○　印象麗江大型ショー鑑賞<br>○　トンバ文化視察<br>○　中国茶芸文化体験<br> <br>＜トンバ文化視察＞（イメージ） | |
| 9 日目 | ○　空路、雲南省（麗江）→上海へ<br>○　上海環球金融中心見学<br>○　上海市内散策 | ホテル<br>（上海市内） |
| 10 日目 | ○　空路、上海→東京へ／羽田空港到着、岩手県へ<br>○　盛岡駅到着、解散 | |

注　平成 29 年度は、上記と異なる行程となることもある。

（3）昨年度（平成 28 年度）の参加生徒の感想（一部）

ア　イーハトーブ・イングリッシュ・キャンプ（英語は生徒が書いた原文のまま）

| |
|---|
| “We were not afraid to make mistakes. I think that’s the reason why our English got better. Our group had so much with speaking English we spoke English until bed time. I think if every group will become like that it will be very good. Thank you.”<br>（間違いを恐れないでがんばりました。それで英語が上達したと思います。私達のグループは英語をたくさん話しましたし、寝る時間まで話しました。グループ全部が同じようであればいいなと思います。ありがとうございました。） |
| “I want to say thank you for ALTs and other teachers.”<br>（ALT と先生方に感謝したいです） |
| “I have never been better than these three days. I want to take part in this camp again!”<br>（このような素晴らしい3日間を過ごしたことはなかったです。（できるなら）またこのキャンプに参加したいと思います。） |
| “Every student who comes to this camp likes English and can speak English, so I think it’s the ALTs job to bring out the confidence and talent of each student.”<br>（このキャンプに参加した生徒みんなが英語が好きになり、英語を話せるようになりました。ALT が自信をつけてくれたし、自分自身気付かなかった才能をうまく引き出してくれたと思います。） |

イ　北米コース

| |
|---|
| 16 日間、本当に内容の濃い、充実した日々だった。視覚でとらえることはもちろん、引率の方からも様々なことを教えていただけて、五感で感じながら考え、すごく勉強になった。進路に関する考え方が変わり学校の活動にもより熱意をもって取り組むようになり、人として大きく成長できた 16 日間だったと思う。 |
| 震災後、他県や外国への復興支援・交流の機会が増え、海外研修の経験がある友人も多くなってきた。他の研修と比較して、この事業は派遣だけでなく事前・事後研修もあり、学習と部活動もある中で大変な時期もあるが、それだけ中身の濃い研修だと感じている。自分にとって高校２年生の今だからこそ、この機会をいただいたことが本当に良かった。 |
| 今回、多くの事を学んだ中での自分の課題は、英語力の向上はもちろんだが、そのためには話す内容が大切で、広い分野に興味を持ち、その場で自分の意見を分かりやすく理論的に話せることと、より積極的に人と関わろうとすることであると感じた。 |

ウ　中国雲南省コース

| |
|---|
| マイナスなイメージを持ちやすい中国を文化の面で理解するいい機会になりました。雲南省と岩手県の交流を含める意味でも有意義な事業なのでこれからも続けていただきたいです。 |
| 今回学んだことを学校で発表し、より多くに人に自分たちが住んでいる今のこの環境がいかに恵まれているか、もっと熱心に勉強に励むべきか、このままではいけないという焦りを持つべきかを伝えたい。隣国であるのに、どれ程の文化と国民性の違いがあるのかを理解して欲しい。 |
| 中国で見てきた中学生、高校生の学力レベルはとても高く、刺激を受けました。今後、私も負けずに勉強を頑張りたいと思いました。また、日本でも海外の人や文化に積極的に触れるようにし、蓄積した経験を、将来周りに伝えていきたいです。 |